

受験番号	
------	--

氏 名	
-----	--



2019年度 東京未来大学入学者選抜試験
一般入試 A日程(1月27日実施)・特別会場入試

国語



【注意事項】

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験時間は1科目60分です。
- 3 原則として、途中退出は認められません。試験中に気分が悪くなった人や、トイレに行きたくなった人は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始の合図の後、受験番号・氏名を、問題冊子と答案用紙の該当欄にそれぞれ正しく記入してください。
- 6 解答は、シャープペンシル又は鉛筆で記入してください。
- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 8 「やめ」の合図があったら速やかに筆記用具を机の上に置いてください。
- 9 試験終了後、問題冊子、答案用紙はすべて回収します。
- 10 その他、必ず監督者の指示に従ってください。

I 現代文 一般入試 A日程（1月27日実施）

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

本文省略

（森本順子『日本語の謎を探る―外国人教育の視点から―』より）

□ 文章中の(ア)から(ウ)の漢字の読み方を、すべてひらがなで答えなさい。

ア 極(めて) イ 献上 ウ 試行錯誤

□ 文章中の①・②・③に当てはまる言葉を、それぞれについて、次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア	また	イ	それでも	ウ	たとえば	エ	そこで
オ	なぜなら	カ	おそらく	キ	では	ク	つまり

□ 文章中の「Ⅰ」・「Ⅱ」に入る最も適切な言葉を、文章中の他の部分から探して、それぞれカタカナ三文字で答えなさい。

□ 文章中の「Ⅲ」に入る最も適切な言葉を考えて、二文字の漢字で答えなさい。

□ 次のアからオの文について、筆者の主張に合うものには○、異なるものには×をつけなさい。

ア 授受動詞は、渡し手と受け手を言わなくても、だれからだれに物が渡るかという関係が分かるという点で、言葉の経済といえる。

イ 「あげる」と「やる」では、「やる」の方が、使用範囲が広く、基本的な言葉といえる。

ウ 日本語の敬語の使用条件は、授受動詞の使用に関してもあてはまっている。

エ 日本語を学ぶ大学生でも、授受動詞を使いこなせるようになるには随分時間がかかる。

オ 幼児の、キャンデーを突き出して、「おばちゃん、これ、くれる」という表現は、もちろん誤用である。

六 次に示す一段落が、本文中から欠落している。正しく挿入した場合、後に続く段落の最初の五文字を答えなさい。

やりもらいの動詞は、このようにして与え手と受け手、物の移動の方向が決まっている。どんなに文を省略して短くしても、その文が表す関係は一定している。「くれる？」とたずねたら、話し手が受け手になろうとめざしているとしか考えられないのである。はじめの会話のようにたちどころに人間関係がわかるのはこの仕組みのおかげである。

Ⅱ 言語事項 一般入試 A日程(1月27日実施)

一 次の①から④までは、カタカナの箇所を漢字に、⑤から⑧までは傍線部をひらがなに直しなさい。なお、漢字及びひらがなは丁寧
書きなさい。

- | | |
|--------------|------------|
| ① 劇団をシユサイする。 | ⑤ 暁の空 |
| ② ウ えに苦しむ。 | ⑥ 仏道に帰依する。 |
| ③ シンギは不明 | ⑦ 蛭雪の功 |
| ④ 故郷をナツかしむ。 | ⑧ 窮余の策 |

二 次の空欄にあてはまる漢字一文字を書き、四字熟語を完成させなさい。

- | |
|-----------|
| ① () 往左往 |
| ② 天() 無縫 |
| ③ 青天() 日 |
| ④ 千載一() |
| ⑤ 一() 来復 |

三 次の①・②は、二文字の熟語である。①・②それぞれと同じ意味的構成をもつ二文字の熟語を、後のアからコの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

①「今昔」

②「古書」

ア 重視
カ 人造

イ 愛憎
キ 晩秋

ウ 不要
ク 予知

エ 飲食
ケ 善良

オ 指名
コ 給食

Ⅲ

古文 一般入試 A日程（1月27日実施）

次の古文を読んで、各問いに答えなさい。

本文省略

（松尾芭蕉『おくのほそ道』より）

一 (ア)「心許なき」、(イ)「断なり」、(ウ)「腸」の読み方を、すべてひらがなで、現代仮名遣いで答えなさい。

二 (A)の空欄に、サ行変格活用動詞「す」を適切な形にして書き入れなさい。

三 ①から③は、それぞれ誰(何)の動作または状態か。それぞれについて、次のアからオの中から一つ選んで記号で答えなさい。
重複して答えてもよい。

ア 芭蕉 イ 関 ウ 風騷の人 エ 曾良 オ 等窮

四 問題の文章中に、一箇所、「」を付けることのできる部分がある。それはどこか。はじめと終わりの三文字(句読点を含まない)を書き抜きなさい。

五 (I)の句の、季語と季節を答えなさい。

六 次は、(II)の句の解釈である。(1)・(2)に入る最も適当な言葉を、文章中から探して答えなさい。

白川の関を越え奥州の地に入って、ひなびた(1)を聞いたが、いかにも素朴でなんとも言えない趣があった。これが、みちのくの旅の(2)の味わいはじめといふべきものでしたよ。